

新産業戦略協議会(ものづくり)
第一回協議会

新たなものづくりシステム についての意見

2016年1月22日

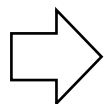
西岡靖之

法政大学デザイン工学部

超スマート社会 (Society 5.0)

「必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、性別、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことのできる社会」(答申11ページ)

「さらに、そうした社会を実現するために、ひとりひとりが、やりがい、生きがいをもって様々な課題解決に参画し、個人、組織、地域など様々な立場で活躍することで、しくみ全体としても多様性をもちつつ進化していく社会」



社会とその構成員である人との関係を、より主体的で、能動的な側面を加えることで、ひとりひとりが“活躍”するための場でもあることを訴えたい。

追加

追加すべき視点

- 稼ぐ力としてのものづくり
 - 原材料を輸入して製品を輸出(付加価値販売型)
 - つながるしくみでサービス提供(継続利用収益型)
- 中小企業、地方企業へのパワーシフト
 - 人財、知財の移転、流動性の確保
 - IoTの最終目的は、中小企業と地方企業にあり
- 新たなIT産業の育成
 - 組込み系、エンタープライズ系、IoT系(オープン系)
 - ものづくり+ITで、海外人財を呼び込み勝ちに行く

平成28年度重点化施策への意見

- 新たなものづくりシステム(70頁)
 - 新たなものづくりシステムのめざす姿として、効率化、高機能化とともに、エコシステムとしてステークホルダーが相互に自律的に進化する“つながる化”の視点を加えてほしい。
- サプライチェーンシステムのプラットフォーム構築(71頁)
 - データを活用したデジタル化技術とあわせて、人が中心となって進めるカイゼンの世界とデジタル世界との境界を対象とした取り組みも加えてほしい。また、中小企業も参画するために、データがもつ価値の視点から、バリューチェーンにおける知財の保護や活用のためのしくみを加えてほしい。
- 革新的な生産技術の開発(72頁)
 - 先端的、革新的な生産技術とともに、生産技術の対象を、生産ラインとしてののからくりや半自動化など、中小企業でも取り組めるようなちよつとした工夫やノウハウ、ロボットなどの技術要素を組み合わせ活用するインテグレーション技術などにも広げてほしい。

実現のための取り組み(追加分)

- 現場力強化とネットワーク化
 - 現場カイゼン知識(事例)のデジタル化
 - 中小企業、地方企業のつながる化
 - 品質強化と技術や知財のトレーサビリティ
- 製造サービス連携技術
 - 生産プロセスの標準部品化
 - リアルタイム会計とモニタリング技術
 - オープン&クローズ型の知財管理技術
- ものづくりIT (IoT) 基盤開発
 - IoTのための新ソフトウェア開発環境
 - デジタルデバイスと現場オペレーションの統合OS開発
 - エッジコンピューティングによるオープン型ハードウェア開発